

9月  
定例会



VOI.10

# いかた 議会だより

平成19年(2007年)11月20日

発行 伊方町議会

編集 議会だより編集委員会

電話 ㊟-0211(内線410)

㊟-2662(直通)

## 「癒ひ池温泉」ココロもカラダもリラックス



8月19日オープンより10月末までの入浴者数 37,980人

### 今回の主な内容

9月定例会の動き	2P
主な決定事項	2P~3P
18年度決算認定される	3P
一般質問	4P~6P
第9・10回臨時会報告	7P
議会日誌	8P



# 9月定例会の動き

第10回定例会は、9月25日～28日開催

報告2件、条例4件、決算13件、補正予算10件、契約1件、発議1件

(すべて原案可決・認定しました)

## 主な決定事項

### 報告

#### 寄附採納について

亀浦 山本洋一氏より  
社会福祉の増進に役立ててほしいと百万円の寄附をされたもの

#### 寄附採納について

松山市水産町 門田榮一氏より  
佐田岬灯台駐車場災害復旧工事のほか伊方町総合計画に掲げる佐田岬灯台周辺整備事業に役立ててほしいと不動産(山林14,042㎡)の寄附をされたもの

### 条例

#### 伊方町税条例の一部を改正する条例制定について

特定非営利活動法人等に対する活動支援の観点から、より明確な減免基準を整備する必要があるため、条例の一部を改正

#### 伊方町中小企業振興資金融資条例の一部を改正する条例制定について

経済産業省中小企業庁長官から信用保証協会へ第三者保証人非徴求の徹底についての通達があったので、これに合わせて条例の一部を改正

#### 伊方町体育施設条例の一部を改正する条例制定について

伊方町スポーツセンター条例の制定に伴い、条例の一部を改正

#### 伊方町スポーツセンター条例制定について

伊方スポーツセンターの管理に関し、指定管理者制度を導入するため、条例を制定

### 決算

#### 平成18年度伊方町一般会計及び特別会計決算

次頁のとおり認定

#### 平成18年度伊方町水道事業会計

収益的収入

354,804,908円

収益的支出

351,922,125円

### 補正予算

資本的収入  
42,500,000円  
資本的支出  
133,059,552円

#### 平成19年度伊方町一般会計補正予算(第3号)

歳入歳出それぞれ  
4億1,093万4千円を追加し、予算の総額を  
98億7,311万円とする

#### 平成19年度伊方町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

事業勘定  
歳入歳出それぞれ  
2,392万2千円を追加し、予算の総額を  
19億4,422万1千円とする

直営診療施設勘定  
歳入歳出それぞれ  
459万6千円を減額し  
予算の総額を

10億3,754万5千円とする

#### 平成19年度伊方町学校給食特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ  
2万8千円を追加し  
予算の総額を

4,580万9千円とする

#### 平成19年度伊方町港湾整備事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ  
228万1千円を追加し  
予算の総額を  
1,741万1千円とする

#### 平成19年度伊方町介護保険特別会計補正予算(第2号)

財源内訳の変更  
平成19年度伊方町介護サービス特別会計補正予算(第1号)  
歳入歳出それぞれ  
73万円を追加し  
予算の総額を  
977万2千円とする

#### 平成19年度伊方町小規模下水道事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ  
22万7千円を追加し  
予算の総額を  
6,402万8千円とする

#### 平成19年度伊方町風力発電事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ  
1,765万2千円を追加し、  
予算の総額を  
6,057万3千円とする

#### 平成19年度伊方町住宅新築費

金等貸付事業特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ  
431万6千円を追加し  
予算の総額を  
964万4千円とする

平成19年度伊方町水道事業会計補正予算(第1号)

水道事業収益に  
30万円を追加し  
収益の総額を  
2億7,066万円とし  
水道事業費用に  
68万3千円を追加し  
費用の総額を  
3億4,483万5千円とする

契 約

伊港交第3号伊方港整備交付金事業物揚場(マイナス・O m)(Ⅱ)築造工事(分割の1) 請負契約の締結について  
契約金額  
1億3,513万5千円  
堀田建設株式会社伊方支店

発 議

地方の道路整備財源の確保に関する意見書の提出について

原案どおり可決

## 平成18年度 決算

監査委員による平成18年度の一般会計及び特別会計決算審査が、8月2日～10日にかけて実施され、更に、第10回定例会会期中の9月26日に全員協議会で審議し、9月28日の本会議において認定されました。

(単位：円)

会 計 別	予 算 現 額 調 定 額	決 算 額		歳 入 歳 出 差 引 額
		歳 入	歳 出	
一 般 会 計	11,767,769,000 11,133,996,378	11,029,651,784	10,726,345,075	303,306,709
学校給食特別会計	45,816,000 45,811,383	45,034,419	45,005,339	29,080
住宅新築資金等 貸付事業特別会計	15,049,000 15,190,256	15,190,256	9,455,505	5,734,751
国民健康保険特別 会計(事業勘定)	1,854,396,000 1,930,625,231	1,874,636,285	1,786,577,680	88,058,605
国民健康保険特別会計 (直営診療施設勘定)	1,068,836,000 715,812,002	715,812,002	1,047,177,965	-331,365,963
老人保健特別会計	2,152,693,000 2,109,194,268	2,109,194,268	2,109,194,268	0
港湾整備事業 特別会計	14,945,000 15,333,441	15,333,441	5,951,500	9,381,941
公共下水道事業 特別会計	622,554,000 447,853,712	447,853,712	436,312,712	11,541,000
小規模下水道事業 特別会計	22,714,000 22,655,956	22,655,956	22,637,351	18,605
特定地域生活排水 処理事業特別会計	17,949,000 17,916,932	17,916,932	17,916,932	0
介護保険特別会計	1,017,501,000 1,018,748,476	1,015,278,676	998,180,595	17,098,081
介護サービス 特別会計	5,300,000 5,219,500	5,219,500	4,488,848	730,652
風力発電事業 特別会計	54,868,000 55,514,269	55,514,269	37,861,737	17,652,532

# 一般質問

## 通告概要

篠川長治議員

- 三町合併による一般廃棄物収集の一元化について
- 伊方町社会福祉協議会の運営等について

梶田和美議員

- ドクターヘリの導入・活用について
- 緊急通報システム装置配備について

## 篠川長治議員



### 三町合併による 一般廃棄物収集の 一元化について

問 伊方町における、「ごみ等  
環境問題につきましましては、住

民皆様の意識の方が行政より進んでいると思います。行政がリーダーシップを発揮しながら、住民の納めた税の約5・2%、1億5千万円余がごみ焼却費用となっており、合併による一元化につきましては、9月初旬より地区説明会を行うことになっておりますが、平成20年度から実施予定の一般廃棄物収集の一元化関連について、お尋ねいたします。

(1)ごみ関連ごみ処理一元化と減量・細分化など徹底分別による再資源化等については、担当者が毎日でも現物を持って、各地区に出向いて説明するく



町内ごみ収集

らいの熱意が必要であると思えますがいかがでしょうか。

(2)ごみ袋販売助成制度は、ごみの減量化に逆行すると思えます。この制度の廃止を求めます。

(3)ごみ処理一元化に伴う初年度・廃棄物関連費用の節減目標以上、3点についてご所見をお伺いいたします。

答 (1)担当課にごみの減量と再資源化の推進を基本とした、町内のごみ収集業務の一元化に向けた検討を指示しており

ます。

そのため、担当課を中心に、9月から三崎地域を皮切りに、町内での説明会を開催し、町の考えをお示しすると共に地域のご意見をお伺いしているところであり、その後は、地域審議会や議会のご意見も踏まえまして、出来る限り早い時期に、意見集約を行い、方針を決定したい。

町民の周知にあたっては、ごみの分別について分かりやすく説明するための「ガイドブック」を作成して各家庭に配布すると共に、町内全域での説明会を開催し、町職員が十分に説明を行った上で、協力をお願いして参りたい。

(2)ごみ袋を町が指定する目的は2つあります。1つは、可燃ごみを焼却処理する際に発生するダイオキシン類を抑制するための材質の管理。2つ目は、八幡浜南環境センター

へ持ち込むごみの搬出元の確認のためであり、今後も指定袋によるごみ収集業務は継続することになる見込みです。

指定ごみ袋販売助成金制度については、町内3地域におけるごみ袋の販売価格は、合併前の制度のままとなっておりますが、いずれの地域も、販売価格は製造原価を下回る金額に設定しており、製造原価と販売価格との差額および小売店の手数料等については、原則町が負担する状況であり、地域によってその手法の違いはありますが、町の財政負担により、指定ごみ袋の価格を安く設定して、住民の負担軽減を図っている現状です。

(3)伊方町一般廃棄物処理基本計画では、平成20年度の廃棄物等の目標値を18年度と比較して、可燃ごみにおいては109トンの減量、不燃ごみ・粗大ごみにおいては約480トンの減量、資源ごみについては38トンの減量を目標としております。節減費用としては、概ね1,400万円程度の節減を図ることとしております。

現在、可燃ごみを搬入して

る八幡浜市の南環境センターも、平成24年度末で可燃ごみの搬入が出来なくなる予定であり、今後新たなごみ焼却場の整備が大きな課題となっており、それに伴い大きな財政負担も必要となつてまいります。

町民の皆さんに、ごみ減量の必要性について、必要な啓発活動を展開すると共に、生ごみ処理容器等の補助制度の活用もお願いをして、これからのごみ排出の抑制に取り組んで参りたい。

(町長)

## 伊方町 社会福祉協議会の 運営等について

**問** 社会福祉法人伊方町社会福祉協議会についてですが、社会福祉協議会(社協)は、伊方町における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達および社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的としております。

社会福祉法では、地域福祉活動計画(社協の活動計画)と

地域福祉計画(行政の施策計画)の策定について定めております。このような計画の策定に

より、住民同士が身近な場で交流しあう、ふれあい・いきいきサロン活動や、独居の脆弱高齢者など地域で見守りが必要な人びとに対する支援活動としての小地域での活動、その他、地域に庇じた多様な住民参加活動を展開していただきたい。

社会福祉法人伊方町社会福祉協議会は、独立した法人ですが、町は当初予算で、平成18年度3,184万7千円、19年度3,306万5千円と多額の補助を行っております。

そこで、行政としての施策・支援により、まちづくりなど社協と協働して、より一層の住民参加によるまちづくりを推進していただきたいと思えます。このことについて、ご所見をお伺いいたします。

**答** 社会福祉協議会は合併前には、それぞれ旧町から行政職員を多く派遣して管理運営をしておりましたが、合併を機に、法人の独自性を重視することとして、派遣職員を最

小限に留め、会長も従来の首長の兼務から学識経験者の登用とし、独立法人として、地域に密着した多様な地域住民のニーズに応えるため職員の意識改革にも努めているところです。

町としては、福祉政策と密接な関係がありますので、地域福祉事業の展開に必要不可欠な財政支援については、今後もお互いの連携を図りつつ、事業内容等を精査した上で、支援して参りたい。

法人の組織等についての取り組み状況ですが、監督官庁の指導指針を受けて、町内の学識経験者や関係福祉団体の代表者など、女性17人を含む総勢30人の方々に、評議員として社会福祉協議会の運営について参画をいただいております。また、私自身も理事という役職に就任しておりますので、法人の独自性を尊重しながら、法人経営の安定と地域に密着した福祉サービスの向上が図られるよう、町民の代表としての立場で、適正に関わりを求めて参りたい。

(町長)

## 梶田和美議員



### ドクターヘリの 導入・活用について

**問** 東西に長い地形である伊方町では、救急搬送は都市部と比べ時間もかかり、すぐに診療が受けられる医療機関も限られるなどのハンディがありまます。そのような際に、ドクターヘリが使えれば搬送時間が著しく短縮され、今以上に救命率また社会復帰率が向上し、町民の医療面での安心度が高まるのではないのでしょうか。

そこで、4点について質問いたします。

(1) わが町の救急医療体制の現状について、このままでよいと思っておりますのかどうか。また、今後の救急医療の拡

充のため、新たな事業や計画があるのかどうかについてもお聞かせください。

(2) 重症重篤患者については、市立八幡浜総合病院・松山市の病院に搬送されていますが、年間どのくらいの件数があるのでしょうか。

(3) ドクターヘリの導入について、国は平成13年度から病院常駐型ドクターヘリ事業を開始し、すでに岡山県・千葉県などで導入され大きな成果を上げておりますが、愛媛県には導入されておられません。

しかし、愛媛大学医学部において、独自に関係機関に呼びかけ既存の防災ヘリを活用したドクターヘリ構想を計画・実施し効果を上げていると聞きおよびしております。病院まで大変遠い伊方町の現状を考えると、ドクターヘリの導入はぜひ必要ではないでしょうか。町長のお考えをお聞かせください。

また、救急医療の格差は正や町民の命を守るという観点から、県にドクターヘリの導入を強く働きかけていただきたいと願うものでございますが、見解をお聞かせください。

(4)すでに独自で実施しております  
ます愛媛大学医学部と連携し、  
ぜひ伊方町にもドクターヘリ  
が使えるような体制整備が必  
要ではないでしょうか。愛媛  
大学医学部と連携するお考え  
はないでしょうか。お聞かせ  
ください。

**答** (1)現在の救急医療体制は、  
八幡浜消防署第1分署・第2  
分署の救急車により、救急患者  
を最寄りの医療機関へ搬送し、  
その指示により拠点病院への  
搬送を行っている状況です。  
救急医療体制については、  
充分とは言えるものではない  
かもしれませんが、現時点で  
は、新たな事業や計画は予定  
しておりません。  
(2)平成18年度中の町内の救急  
搬送人員は397名、そのうち  
重篤患者の搬送は80名。市立  
八幡浜総合病院までの搬送は  
78名、松山市内の救命救急セン  
ターへの搬送は、市立八幡浜総  
合病院へ搬送後2名あります。  
消防防災ヘリを利用しての  
救急患者及び救助の出勤件数  
は、平成16年度から現在まで、  
患者搬送が1件、救助が2件  
となっております。

(3)病院常駐型のドクターヘリ  
の導入については、離島に対  
する導入効果は非常に高いと  
思われます。  
しかしながら、本町のよう  
に拠点病院と陸続きである場  
合は、ヘリコプターの到着時  
間、ヘリポートに適する場所  
の少なさ、これらにより救急  
隊が救急車で搬送した方が、  
拠点病院までの到着時間が早  
い場合もあります。

これまでの防災ヘリの要請  
実績から見ても、緊急を要す  
る患者の搬送需要には、現在  
の体制で概ね対応できている  
と考えております。  
なお、専用のドクターヘリ  
の導入には多額の経費を要す  
ることもあり、当面は、愛媛  
県防災ヘリの活用で対応がで  
きるのではないかと考えてお  
ります。  
(4)緊急の医師派遣として、愛  
媛大学医学部が取り組んでお  
りますドクターヘリ事業は、  
救急隊からの要請により、県  
の消防防災ヘリコプターに救  
急部の医師が同乗し現地へ向  
かうものであります。  
一方、患者の消防防災ヘリ  
コプターによる救急搬送も実

施されており、伊方町におい  
ては、平成16年12月21日に発  
生した、大型トラックによる  
名取トンネルでの事故の際、  
救急隊員が現地から防災ヘリ  
を緊急要請し医師と患者が同  
乗してヘリコプターによる搬  
送を行った実績があります。  
これら消防防災ヘリコプター  
の要請については、行方不明者  
の捜索等も含め、愛媛県と各市  
町村及び各施設事務組合との  
間で取り決めを行った「愛媛  
県消防防災ヘリコプターの支  
援に関する協定」があり、伊方  
町もこの協定に基づき対応を  
しておりますので、今後も必要  
に応じて消防防災ヘリコプター  
の要請をして参りたい。

(町長)

**緊急通報システム  
装置配備について**

**問** 伊方町の高齢化率は36%  
と高く、今後も高齢化が進行  
するものと予想されておりま  
す。そのため、健康寿命の延  
伸とともに、高齢や障害があっ  
ても安心して暮らせる、地域  
で支えあう体制の充実が課題

となっております。  
伊方町の独居高齢者は、平成  
19年4月1日現在873人と  
非常に多く、その中には要支援  
の方、要介護の方もおられます。  
本町におきましても他県に  
おきましても、独居高齢者  
の痛ましい事故や死亡後の発  
見などがございます。不安を  
除き、緊急時でもどこかには  
連絡がつくという、安心の方  
向へもつていくのが行政の役  
割ではないでしょうか。  
独居高齢者の安心感のある  
生活を支えるために、伊方町  
に緊急通報システム装置の配  
備を求めますが、町長のお考  
えをお聞かせください。



緊急通報システム装置

**答** 緊急通報システム装置の  
無償貸与状況を地区別に申し  
ますと、瀬戸及び三崎地域で  
は平成3年度より、伊方地域  
では平成4年度よりそれぞれ  
10台を購入し事業を開始して  
おり、その後、旧伊方町では  
合併までに108台を追加購  
入しております。

合併を機に、実施主体を社  
会福祉協議会として、財源は  
まごころ銀行の預託金を充當  
し、実施をしている状況であ  
ります。現在の貸与台数は、  
伊方地域84台・瀬戸地域7台・  
三崎地域4台の合計95台となっ  
ており、地域間の格差もあり  
ますので、制度そのものの周  
知についても、民生委  
員会の会合や広報誌な  
どを通じ、住民の方々  
に更なる周知を行い、  
町民同士で支えられる  
合力(こころ)の心  
を醸成し、地域で支え  
合う体制の充実を図り、  
高齢者にやさしい町づ  
くりを推進して参りた  
い。

(町長)

# 委員会（協議会）報告

月 日	委員会（協議会）	概 要
7月25日	議会運営委員会	第9回臨時会の運営について
7月30日	議員全員協議会	物品の取得について 7月集中豪雨及び台風4号による災害報告について
8月10日	議会運営委員会	第10回臨時会の運営について
9月12日	議会運営委員会	第10回定例会の運営について
9月18日	議員全員協議会	平成18年度滞納処分報告について 伊方スポーツセンターの指定管理者制度導入について 総合評価落札方式の試行について 伊方町新公共交通システム事業について 伊方町防災行政無線施設整備事業（固定系） 第1次伊方町行政改革大綱に基づく進捗状況について 伊方町立三崎小学校校舎改築について
9月26日	議員全員協議会	平成18年度一般会計等決算審議

## 平成19年度 第2回 町議会議員研修会

平成19年9月4日（火）  
砥部町中央公民館

### 研修内容

#### 1 地方行財政の構造改革の流れ

- (1) 「三位一体改革」
- (2) 歳出・歳入一体改革と地方財政
- (3) 最近の財政状況と平成19年度の地方財政計画
- (4) 新たな地方財政再生制度の創設

#### 2 これからの構造改革のめざす方向

- (1) 地方分権改革の方向
- (2) 国・地方のバランスのとれた財政再建
- (3) 国と地方の税財源配分の見直し
- (4) 道州制の検討

#### 3 市町村行政が迫られる課題

- (1) 少子・高齢化、人口減少社会への対応
- (2) 自治体改革への競争
- (3) 地方分権改革の上で求められるもの

## 第9・10回 臨時会報告

### 第9回臨時会

- 物品の取得について  
(伊方町健康交流施設  
亀ヶ池温泉家具備品整備)

### 第10回臨時会

- 平成19年度伊方町一般会計補正予算  
(第2号)
- 物品の取得について  
(伊方地域小学校情報機器整備)

第9回臨時会は7月30日、10回臨時会は8月24日に開催され、上程された議案は、何れも原案のとおり可決されました。

# 議 会 日 誌

7月25日	議会運営委員会	8～10日	北海道とまりマラソン2007 開会行事議長参加
30日	議員全員協議会 第9回臨時会	11日	埼玉県議会行政視察
31日	愛媛県町村監査委員協議会臨時総会 研修会（松山市）	12日	議会運営委員会 伊方町行政改革推進委員会
8月2・3日	全国町村議会正副議長研修会 （千葉県）	13日	例月現金出納検査（監査委員）
2～10日	平成18年度一般会計等決算審査（監査委員）	18日	議員全員協議会
10日	議会運営委員会	25～28日	第10回定例会
15日	愛媛県戦没者追悼式	26日	議員全員協議会 平成18年度一般会計等決算審査
19日	亀ヶ池温泉オープン記念行事	10月1日	青森県大間町議会大間原子力発電所 対策特別委員会行政視察
21日	伊方町人権対策・人権教育協議会総会	3日	全国原子力発電所立地市町村議会 議長会役員会（東京）
24日	第10回臨時会	12日	市町知事陳情（八幡浜市）
30日	八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合議会	16・17日	町村監査委員全国研修会（東京）
9月2日	愛媛県総合防災訓練（八幡浜市）	17日	四国4県東京フォーラム（東京）
4日	第2回町議会議員研修会（砥部町）	22日	愛媛県町村議会議長会定例会（松山）
5日	伊方町人権・同和教育地域推進員研修会	23日	北海道神恵内村行政視察
6日	伊方原子力発電所環境安全管理委員会		
7日	伊方町環境監視委員会		

## 各地より続々視察来町

### ○埼玉県議会（9月11日）

風力発電事業の概要及び現地説明

### ○青森県大間町議会大間原子力発電所対策特別委員会(10月1日)

- ①核燃料サイクル交付金について
- ②原子力発電所関連財源での事業実績及び今後の計画の概要
- ③防災関係について
- ④役場庁舎とオフサイトセンター建設について

### ○北海道神恵内村議会（10月23日）

四国電力伊方発電所3号機におけるプルサーマル計画の受け入れの経過について

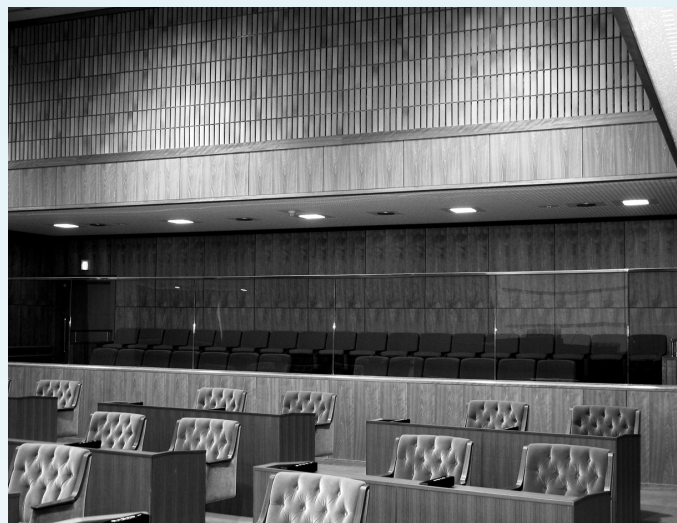
政策推進課・議会及び関係者共に視察研修等対応しております。

## 議会を傍聴しませんか

議会は、定例会と臨時会があり、定例会は条例によって、3・6・9・12月の計4回開くことになっています。臨時会は必要に応じ開かれます。定例会では、議員の一般質問があり、町政の様々な問題について活発な議論が行われます。

議会の傍聴は原則自由にできますのでお気軽に役場4階議場までお越しください。次回定例会は12月の予定です。

（詳しくは、議会事務局まで）



（傍聴席 30席）

## 編集後記

地球温暖化により季節感が希薄になっていく。今日この頃、冬の気配を感じつつ散策してみるのがいいですね。議会だより第10号をお届けいたします。ご意見ご感想をお寄せください。